

アヲハタグループ
環境・社会報告書 2010

アヲハタ株式会社

目 次

ごあいさつ	1
経営理念・経営方針	2
コーポレートガバナンス・コンプライアンス	3
トピックス（生産3工場の取り組み・社会的な取り組み）	4
■環境への取り組み	8
地球環境とともに	9
生産工場での取り組み	10
■社会への取り組み	11
お客様とともに	12
お取引先とともに	13
株主・投資家とともに	14
仲間とともに	15
地域・社会とともに	17
■資料編	18

編集方針

この報告書は、より多くの方にアヲハタグループの環境保全活動や社会的な取り組みを知っていただくため、コミュニケーションの一環として作成しました。写真、イラスト、グラフなどをできるだけ多く用い、「見やすく」、「分かりやすく」に留意し編集しました。構成と開示内容については、環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」を参考にしています。

なお、本報告書は、当社ホームページに掲載しています。
URL <http://www.aohata.co.jp/>

本報告書の対象範囲

【対象範囲】：主要な実績については、アヲハタグループの生産工場であるアヲハタ(株)ジャム工場、東北アヲハタ(株)、芸南食品(株)のデータを集計し記載しました。環境保全活動や社会的な取り組みに関しては、アヲハタグループ各社の内容も含んで記載しています。

【対象期間】：2008年11月1日～2009年10月31日
取り組み内容については、一部2009年11月以降のものも記載しています。

【発行月】：2010年5月

ごあいさつ

いつも「正直」であること。

これがアヲハタグループが取り組むCSR（企業の社会的責任）の基本となる考え方です。

当社グループは、農産加工を原点に持つ会社として、その社会的使命を「素材の持つ魅力をお客様にお届けすることで、豊かな食生活と健康に貢献すること、そして、妥協することなく社訓・社是の実践に取り組み続けること」であると認識しています。良心のこもった最良の食品を提供する使命のなかで、当社グループに関わる方々に対して常に「正直」であり続けたいと思っています。

昨今、食の信頼性が強く求められるなか、当社グループでは食品メーカーの責務として、お客様が安心して召し上がっていただける食品の提供を最優先に考えています。また、環境面においては、恵みの大きい自然、地球環境に感謝し、その恩恵を永遠に享受できるように環境保全活動に積極的に取り組んでいます。環境マネジメントシステム「ISO14001」を活用し、省エネ、省資源などさまざまな課題に対し、継続的に取り組んでまいります。

創立60周年にあたる2008年には、長期ビジョン2018を制定し、「お客様の求める価値の実現」「海外展開」「人の育成」「社会的責任を果たす」を掲げました。特に社会からの要請に対しては、今後とも誠実な姿勢で対応していく所存です。

本報告書を通じて当社グループの環境や社会に対する取り組みをご理解いただくとともに、皆様からの忌憚のないご意見を賜れば幸いに存じます。



2010年5月
アヲハタ株式会社
代表取締役社長 福山二郎

経営理念・経営方針

社訓

1. 正直
1. 信用
1. 和

社是

1. 安全と衛生を第一とすること
1. 最高の品質を追求すること
1. 生産性の向上を図ること

経営方針

当社グループは、社訓ならびに社是を経営理念の核に置くとともに、創立 60 周年にあたる平成 20 年を機に具体的なありたい姿として、以下の長期ビジョン 2018 を制定しました。
この長期ビジョンの実現を通してより魅力ある企業を目指してまいります。

ビジョン 2018

我々、アヲハタ株式会社は農産加工を原点に持つ会社として、その社会的使命を「素材の持つ魅力をお客さまにお届けすることで、豊かな食生活と健康に貢献すること、そして、妥協することなく社訓・社是の実践に取り組み続けること」と認識し、2018 年に向けた目標を以下のとおり掲げます。

「お客様の求める価値の実現」	技術にこだわり、お客様の求める価値を実現しよう
「海外展開」	栽培と農産加工技術をもとに、世界に展開しよう
「人の育成」	一人ひとりが成長し、企業力を高めよう
「社会的責任を果たす」	社会の要請に、誠実に対応しよう

私たちが目指す人間像

「正直」を実現するためには、“勇氣”が必要です。

“勇氣”とは、失敗を恐れずに困難に立ち向かうことであり、その結果、もし自分が失敗したり間違ったりしたときにはその失敗や間違いを素直に認めることができること、そして人が間違っているときに間違っていると素直に指摘できることです。

また、食品企業としての「信用」を守るためには“清潔”で“誠実”なことが必要です。

「和」を実現するためには人に対する“愛情”と何が本当に重要かを判断するための“知識”が必要です。

私たちは、「正直で勇氣のある人」、「清潔で誠実な人」、「愛情と知識を大切にする人」を目指します。

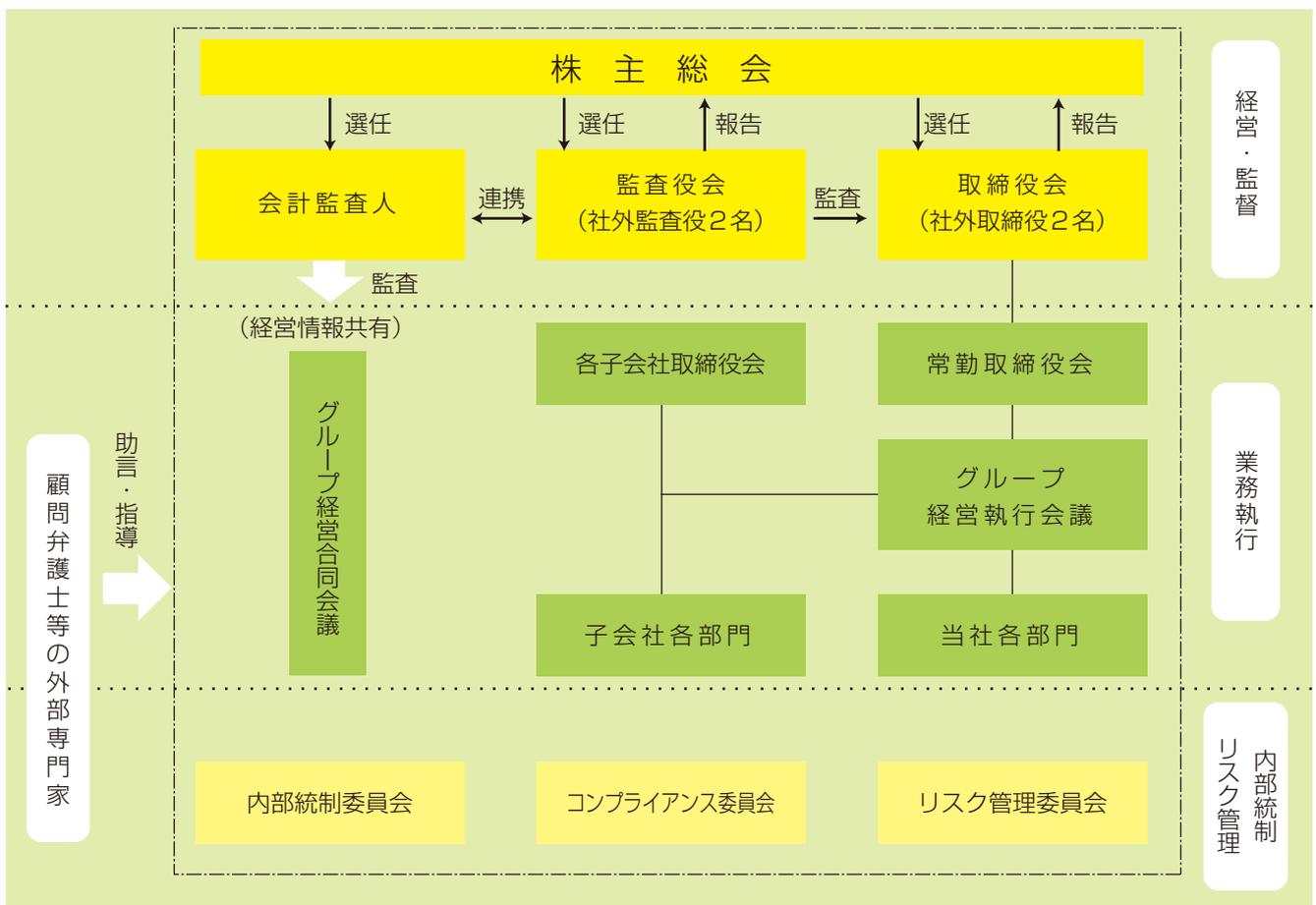
コーポレートガバナンス・コンプライアンス

コーポレートガバナンス

当社グループは、社訓「正直・信用・和」を経営の根幹に置き、「缶詰は中身が見えないからこそ正直者がつくらなければならない」という信念のもと遵法精神に基づき誠実で透明性の高い会社運営を実践してまいりました。

今後も効率的な経営によって企業価値の最大化をはかり、経営上の組織体制や仕組み・制度などを整備するとともに、企業の永続的な発展のために不可欠なコンプライアンス体制の整備や、環境保全活動、地域・社会貢献活動などに取り組み、顧客、株主、取引先、社員、地域・社会の人々から信頼と満足を得られる魅力ある企業づくりを進めてまいります。

なお、会社の機関・内部統制の関係は以下のとおりです。



コンプライアンス

当社グループでは、役職員が法令・定款および社訓・社是を順守した行動をとるための「アラハタ行動規範」を制定し、周知徹底をはかっています。

また、法令・定款等に適合した企業行動・組織運営をおこなうための体制を整備するため、コンプライアンス規程を制定し、代表取締役を委員長とするコンプライアンス委員会においてグループ全体のコンプライアンスへの取り組みを推進し、役職員に対するコンプライアンス教育をおこなっています。

なお、コンプライアンス上の問題の未然防止および早期発見と適正な処置をおこなうため、内部通報制度「アラハタグループ コンプライアンス 110 番」を設け、通報・相談窓口を社内と社外に複数設置することにより、情報の確保と適切かつ迅速な対応に努めています。

トピックス（生産3工場の取り組み）

本報告書対象期間中の生産3工場の取り組みを「省エネルギー」「省資源」「生産革新」の観点からトピックスとして取り上げました。また、対象期間中の社会的な取り組みについても記載しています。

省エネルギー

設備投資

●省エネコンプレッサー（ジャム工場）

コンプレッサー更新に伴い、省エネタイプのインバーター制御のコンプレッサーを導入しました。省エネ効果としては、二酸化炭素量 28 トン-CO₂/年の削減効果があります。



●パストライザー（ジャム工場）

殺菌槽への加熱方法を熱効率の良いインジェクション方式に変更しました。省エネ効果としては、二酸化炭素量 94.6 トン-CO₂/年の削減効果があります。

●チラー・冷却槽（芸南食品株）

冷却水の冷却方法を見直し、チラー・冷却槽を変更しました。省エネ効果としては、二酸化炭素量 7 トン-CO₂/年の削減効果があります。



●アイスビルダー設備（芸南食品株）

冷却方法を見直し、アイスビルダー設備を導入しました。省エネ効果としては、二酸化炭素量 1.3 トン-CO₂/年の削減効果があります。



CO₂削減

●ボイラーのガス化

ジャム工場に導入したガスボイラーは、当初の予定どおり、10ヶ月間で495トン-CO₂削減できました。商品開発センターのボイラーもLPG仕様として3月に更新しました。これにより0.6トン-CO₂/年削減予定です。

●ハイブリット（空気攪拌）ファンの導入

空気攪拌ファンは、冷房・暖房時の部屋の中の温度差を均一化させ、設定温度をより環境配慮できます。ファンは自律式で空調機の送風力を利用するエコ設計の優れたものです。



●LED蛍光灯への変更

一部の事務所で従来の蛍光管（38W）をLED管に変更してみました。これにより従来の明るさを23Wの電力で再現しています。

●人感センサーライトの導入

工場の通路照明を人感センサーと連動させて必要時のみ点灯させています。



●エコベンダー（自動販売機）導入

従来のヒーター方式からヒートポンプ式の自販機に入れ替えました。省エネ効果としては、二酸化炭素量 2.7 トン-CO₂/年の削減効果があります。

●ゴーヤビズ

夏場、窓の外にゴーヤを植えると陽射しを遮り、断熱効果をもたらします。全社で取り組みました。



省資源の取り組み

●びんの薄肉化

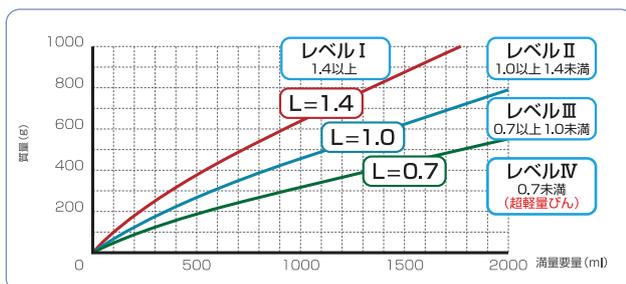
ジャムの主力製品の中型びんでは 8 g（5%）の軽量化を実現し、年間 138 トンのガラス使用量を削減しました。これはガラスびんメーカーでは、二酸化炭素量 82 トン-CO₂/年削減できていることになります。

また、芸南食品(株)で製造している「キューピー 3 分クッキング・パスタのためのオイルソース」のびんも 14 g（9%）の軽量化を実現し、年間 54 トンのガラス使用量を削減しました。これはガラスびんメーカーでは二酸化炭素量 32 トン-CO₂/年削減できていることになります。



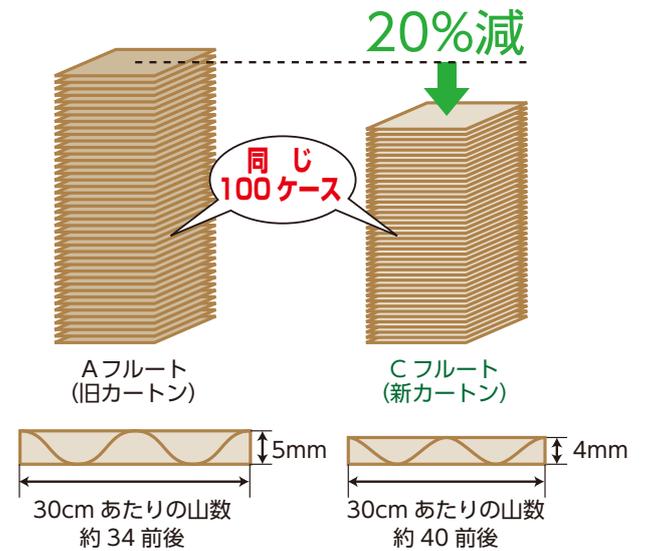
ジャムの中型びんは、日本ガラスびん協会が定義した軽量度指数 L 値が 0.815 です。

$$L \text{ 値} = 0.44 \times \text{ガラスびん質量 (g)} \div \text{満量容量 (ml)}^{0.77}$$



●カーターの薄肉化

ジャムの主力製品である中型びんの包装カートンに従来の A フルートから省資源タイプの C フルートに変更しました。これにより年間 6.2 トンの省資源となり、ダンボールメーカーでは二酸化炭素量 7.3 トン-CO₂/年削減できたことになります。



シートの厚みが約 1mm 薄くなることによって、約 20% の減容となり、倉庫スペースと輸送コストを削減することができます。

●シュリンクフィルムの薄肉化

ジャムの主力製品で設備の見直し更新をおこない、シュリンクフィルムの薄肉化（50 → 40 μ）を実現しました。

シュリンクフィルムとは、ジャムのキャップの上にかぶせてあるプラスチックフィルムです。



トピックス（生産3工場の取り組み）

生産革新活動

【ジャム工場】 「え～じゃん活動」の改善事例 ～製造工程での廃棄びんを減らしたい～

ジャムびんを製造ラインに送り込む際、びんが途中で詰まってしまうことがありました。そうすると、びんを運ぶベルトコンベアの調整や、びん同士がぶつかって破損していないかの確認作業に手間がかかりますし、なにより、破損してしまったびんは使えませんので、廃棄物が発生してしまいます。ここを改善した結果、年間3万本の廃棄びんを減らすことができ、作業時間も年間で約58時間減らすことができました。



▲え～じゃん活動の成果を食堂施設に掲示して社員間で情報を共有しています

【東北アヲハタ(株)】 「ちょっと聞いてけるメモ」の改善事例 ～金属ボールにかぶせるポリ袋を減らしたい～

原材料を調理前に金属ボールに移しておく際、ポリ袋をかぶせていました。使い終わった袋は廃棄物になりますし、袋を結ぶ手間もかかっていたため、この方法を止め、専用の金属フタを作った結果、年間7,500枚のポリ袋廃棄物と約15時間分の作業を削減することができました。



【芸南食品(株)】 「生産革新活動 仲間とともに」の改善事例 ～スープの作業改善で省エネ～

2種類のソテー品を使用する商品について、これまでは2種類を別々にソテーしていましたが、創意工夫により一括でソテーするように製法改善しました。

また、煮込み工程では、煮込み品の前処理をする設備を社内考案し導入した結果、従来人手に頼っていた作業が楽になり、煮込み時間の短縮まで図ることができました。

これらの生産性向上の取り組みにより、ソテーや煮込みにかかる時間を年間で約40時間短縮することができ、さらには重油の使用を年間約200ℓ削減することができました。



▲効率化の図るため前処理設備を社内考案しました

トピックス（社会的な取り組み）

植林活動に参加しました



11月14日、「竹原ふれあい植樹の会」が竹原工業団地近隣の丘陵で開催されました。このイベントは、Jパワープグループ（電源開発(株)竹原火力発電所様・(株)JPビジネスサービス様）と中国ペプシコーラ販売(株)様の共同開催で、当社も協賛企業として参加し、植樹ボランティアにはグループから家族を含めて28名が参加しました。

ボランティア活動などに関する「ポイント制度」をスタートさせました

5月1日より、ボランティア活動などに関する「ポイント制度」をスタートさせました。

この制度は、間接的社会貢献活動の一環としてはじめてのもので、社員の方のボランティア活動などへの積極的な参加を促し、一人でも多くの方が楽しんでボランティア活動などに参加できるようバックアップすることを目的として導入しました。

12月には、高ポイントの方6名が、特別に「善行（ボランティア活動等への積極的な参加）」として、表彰されました。



▲竹原市大久野島の海岸清掃活動

お茶会で環境活動をPRしました

会社のクラブ活動である「茶道部」主催のお茶会で、工場の近隣の方や社員のご家族など参加者の皆さんを対象に、環境活動への取り組みをPRしました。



株主優待品に地元授産施設の授産品を同封しました



株主優待品の中に地元の社会福祉法人聖恵会「ワークホーム聖恵」でつくられた「たんざく箋」を同封しました。

過去4回、継続していますが、株主様からも好評をいただいています。

また今回より、環境に配慮した「エコ包装」として、簡易包装への変更、紙箱からダンボールへの切り替え等の改良をおこないました。

環境への取り組み

東北アヲハタ(株)のある山形県北村山郡大石田町。
日本三大急流の一つと言われる最上川が流れています。

アヲハタグループ環境方針

アヲハタグループは、瀬戸内海沿岸にある風光明媚な広島県竹原市や、最上川が流れる自然豊かな山形県大石田町に立地し、主にジャム類や調理食品などの食品の製造・販売を行う企業グループとして、環境保全活動を社会的責任と理解し、地域・社会から信頼される事業活動を進めてまいります。

- (1) アヲハタグループの事業活動・製品及びサービスに係わる環境関連法規・規則・協定およびアヲハタグループが同意するその他の要求事項を順守します。
- (2) アヲハタグループの事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
- (3) アヲハタグループは、環境目的・目標を設定して、全構成員で環境保全に取り組むとともに定期的な見直しをします。
- (4) 以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - ①事業活動におけるエネルギー消費量の削減に努めます。
 - ②廃棄物の削減に努め、再利用化、再資源化を図ります。
 - ③アヲハタグループ全体の環境保全諸施策を計画推進します。
 - ④地域の環境保全活動を積極的に推進します。
- (5) 環境方針は、全構成員に配布すると共に社外にも開示します。

アヲハタ(株)の本社およびジャム工場は、自然豊かな瀬戸内海国立公園に面した広島県竹原市忠海中町にあります。

地球環境とともに

当社は、自然の恵みである農畜水産物を加工し、製品づくりをおこなってきました。また、当社創業の地であり、本社・ジャム工場所在地である広島県竹原市忠海は、瀬戸内のほぼ真ん中に位置し、風光明媚な土地です。恵み大きい自然、地球に感謝し、その恩恵を永遠に享受できるよう、環境保全活動には積極的に取り組んできました。この章では、環境について当社グループの取り組みをご紹介します。

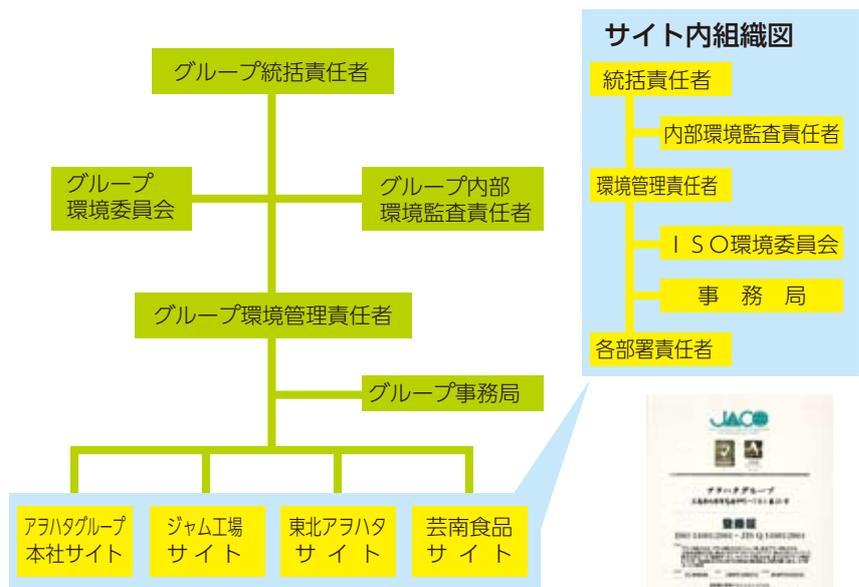
ISO 14001 アヲハタグループ統合認証

1999年、アヲハタ(株)ジャム工場にてISO14001を認証取得し、その後連続して各生産工場および本社部門全てで認証取得しました。

また、アヲハタグループ全体の環境マネジメントシステムの更なる向上を図るため、2007年6月に4サイトの統合をおこない、10月に「アヲハタグループ」として認証を取得しました。

各サイトで同じ方針のもとに運用し、効率良い環境保全活動を推進しています。

ISO14001 アヲハタグループ組織図



▲認証登録証

2009年度の環境目標と実績

課題・テーマ	項目	管理指標	基準年度	2009年度		
				目標	成果	自己評価
地球温暖化の防止	エネルギーの削減	使用量 / 生産数量	1990	100%以下	104.4%	△
	CO ₂ 排出量	CO ₂ 原単位	1990	100%以下	99.3%	○
資源の有効利用	使用水の節約	使用量	1990	100%以下	76.5%	◎
循環型社会の形成	排出物の削減	排出量	2008	100%以下	90.8%	○
	排出物の再資源化の向上	再資源化率	2008	100%以上	99.7%	△
	排出物の有価率の向上	有価率	2008	100%以上	90.7%	×

※自己評価の基準（目標に対し） 10%以上達成： ◎ 10%未満達成： ○
5%未満未達成： △ 5%以上未達成： ×

環境関連法令順守と苦情の状況

2009年度中のアヲハタグループの事業活動における環境関連の法令、条例等の違反行為はありませんでした。また、環境に関する苦情もありませんでした。

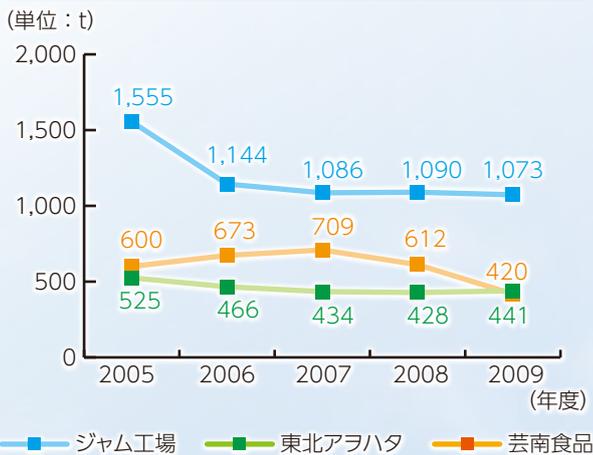
生産工場での取り組み

生産3工場の環境負荷

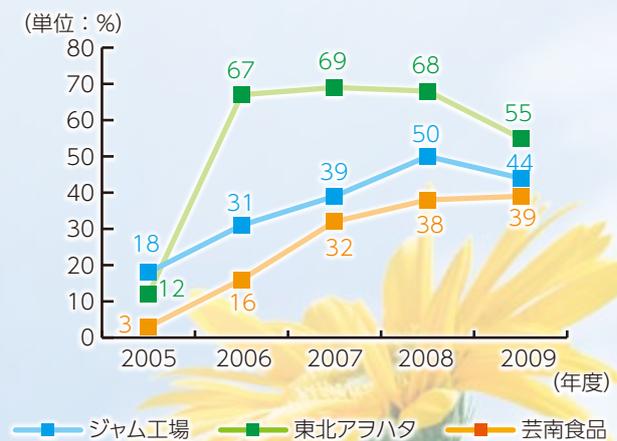


再資源化の状況

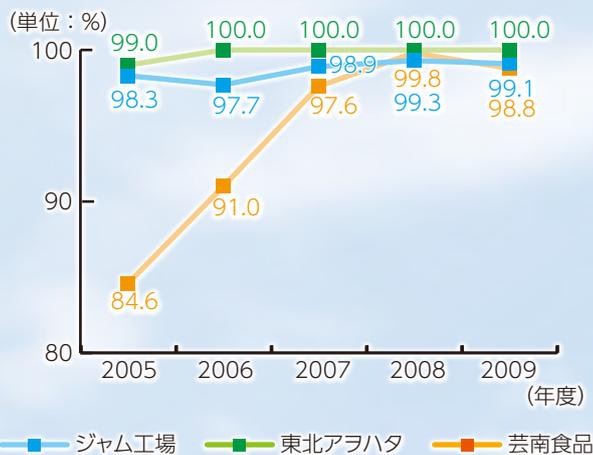
排出物量の推移



有価率の推移



再資源化率の推移



社会への取り組み

いつも「正直」であること…。

アヲハタグループは創業以来、瀬戸内の風土に生まれ、
社訓「正直 信用 和」を基本として事業を展開してきました。
今後も、良心のこもった最良の食品を提供する使命のなかで、
当社グループに関わる方々に対して常に「正直」であり続けたいと思います。



お客様とともに

お客様の「Quality of Life」の向上に寄与する「食」の提供を中心としたさまざまな取り組みを通じて、アヲハタグループおよびその製品・サービスがお客様から愛される存在であることを目指します。

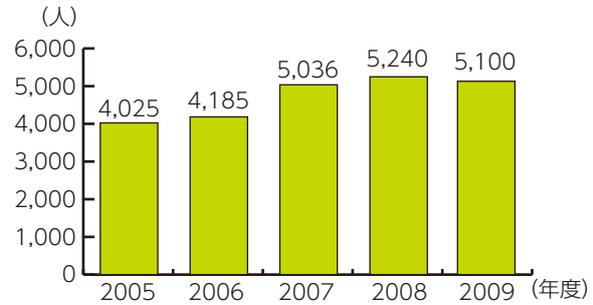
ジャム工場の見学を受け入れています

当社ジャム工場では、見学者通路を設け、広く一般の皆様の工場見学を受け入れています。

見学者の方には、低糖度ジャムの製造工程を中心にご紹介しています。2009年度は、5,100名の方に見学していただきました。

今後も工場見学を通じて、私たちの味づくりに対する考え、工場での衛生管理、製品の特長などを知っていただきたいと思います。

工場見学者数の推移



見学通路にモニタを設置しました

ジャム工場 LS プラントの工場見学通路に録画した工場内部の映像を流すモニタを設置しました。従来見学通路から見る事ができなかった工程も動画でご紹介することができ、よりお客様に伝えやすくなりました。



ジャムづくりの楽しさを味わっていただく「体験 Jam 工房」

ジャムづくりの楽しさを味わっていただくために、体験施設「体験 Jam 工房」を開設しています。

ジャムの種類は、ご予約の際、イチゴジャム、オレンジマレード、ブルーベリージャムの3つの中からご希望のものを選んでいただき、ご自分でつくられたジャムは、お持ち帰りいただけます。是非、自分だけのオリジナルジャムづくりに挑戦してみてください。



▲体験 Jam 工房



▲できあがったオリジナルジャム

体験 Jam 工房のご案内

お申し込み： 事前（ご希望の1週間前まで）にジャム工場へ電話でお申し込みください。

TEL (0846) 26 - 0586

場 所： 当社ジャム工場内

時 間： 1日2回

① 9:30 ~ ② 13:30 ~

(所要時間約2時間半)

人 数： 1回 5~20人

体 験 料： お一人さま 500円

(ジャムを4本つくることができます)

休 日： 日曜、祝日、年末年始、お盆休み、その他（土曜日は休みの日があります）

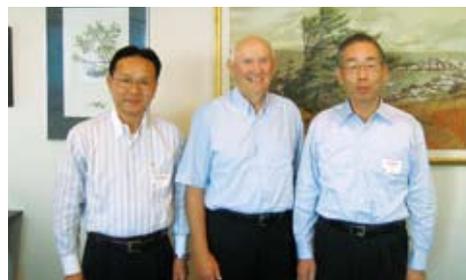
お取引先とともに

「良い製品」の提供のため、お取引先と共同しておこなうさまざまな取り組みを通じて、お取引先と当社グループが共に発展する関係の構築を目指します。

お取引先と共に品質をつくりこんでいます

トップ同士の交流でパートナーシップの構築

当社グループの果実原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。安全で安心な原料を調達するには、お取引先との信頼関係の積み重ねがないとできません。当社グループの品質に関して、ご理解いただけるお取引先とトップ同士の交流などパートナーシップを構築しながら取り組んでいます。



▲海外原料メーカーとのトップ交流

原料から品質をつくりこむ

安全で美味しい原料を調達するため現地では育苗、栽培から一次加工*まで当社グループの技術者が出向き技術指導や技術講習会などをおこなっています。

*一次加工：当社でそのまま使用できるように、収穫してから洗浄、選別、凍結する工程です。



▲産地の生産者の方々と



▲一次加工メーカーとの現地ミーティング

一次加工メーカーの研修

当社グループの品質に対する考え方を理解いただくために、一次加工メーカーの従業員の方々を対象とした日本での研修をおこない、一緒に品質をつくりこんでいます。



▲品質管理講習

品質向上のための DQC *活動に取り組んでいます

当社グループで製造する製品の原資材には農産品以外に、砂糖やペクチンなどさまざまな加工原料や、容器・ダンボールなどがあります。安全・安心な製品を生産するためには、これら原資材の品質も維持しなければなりません。そのため、「DQC」と称し、お取引先の原資材メーカーと品質管理情報・リスク管理情報を共有化し、源流管理をおこない、より安全で、より良い品質の原資材調達を追求しています。

*DQC：Double Quality Control



▲ガラスびん供給メーカーとの技術交流会

株主・投資家とともに

1998年、当社は会社創立50周年を記念して広島証券取引所に株式を上場しました(現在は、東京証券取引所市場第2部に上場しています)。上場企業としての社会的責任を自覚し、企業価値の持続・継続的な向上に努めます。

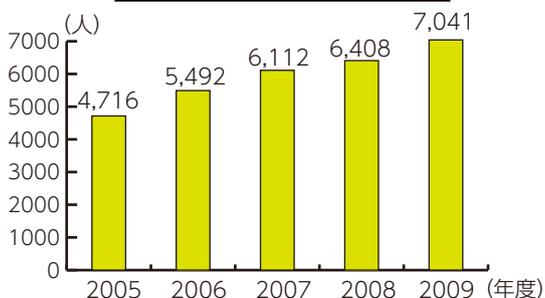
株主数の推移と株主構成

株式市場への関心の高まりや個人投資家の増加に加え、当社が2003年3月に一単元の株式数を1,000株から100株に変更したこともあり、株主数が大幅に増加しました。

人数ベースの株主構成(2009年10月末現在)では、99.0%が「個人」となっています。

今後とも個人投資家を意識した株主づくり、アヲハタファンづくりに努めてまいります。

過去5年間の株主数推移

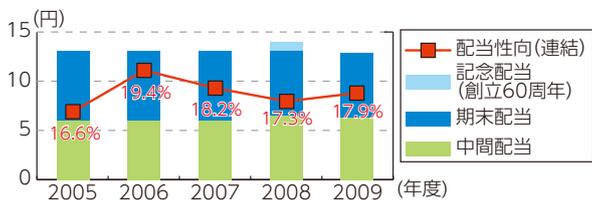


安定的な配当の継続を基本とした利益還元

株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題の一つとして認識しています。

利益配分につきましては、安定的な配当の継続を基本としつつ、連結業績および連結ベースの配当性向を勘案したうえで実施していく方針です。

1株当たり配当金と配当性向(連結)の推移



会社情報の適時適切な提供

投資家の皆様への適時適切な会社情報の開示は、健全な証券市場の根幹をなすものであると認識しています。

会社情報の適時適切な提供について、真摯な姿勢で臨むことを基本方針とし、迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を適切におこなえるよう社内整備の充実に努めています。

当社ホームページ上では、「投資家の皆様へ」と題するページを設け、会社情報を発信しています。



株主総会のビジュアル化と試食会などの開催

株主の皆様への営業概況の報告では、より分かりやすくするため、スクリーンに数値やグラフ、写真などを表示し、ビジュアル化(視覚化)しています。また、株主総会後には、事業内容の理解促進、株主様と役員とのコミュニケーションなどを目的として試食会と工場見学会を開催しています。



▲株主総会



総会後の試食会▶

株主優待制度のご紹介

当社では株主優待制度として、毎決算期末時点(10月31日)、100株以上ご所有の株主様に対して、当社製品詰め合せを贈呈しています。

*ご参考:写真は2009年度の優待品です。



▲100株以上1,000株未満の株主様への優待品(1,000円相当)



▲1,000株以上の株主様への優待品(3,000円相当)

仲間とともに

企業が持続発展するためには、従業員が健康で、明るく、のびのびとその力を発揮することが必要です。
会社と従業員が相互信頼のもとで共に高めあう企業文化の構築を目指します。

次世代育成支援マークを取得しました

アヲハタグループでは、平成 17 年の次世代育成支援対策推進法の施行に伴い、仕事と家庭の両立支援に取り組んでいます。

当社で平成 18 年 11 月～平成 20 年 10 月の 2 年間に計画期間として提出した「一般事業主行動計画（第一期）」について掲げた目標の達成が認められ、「次世代育成に取り組む企業」として厚生労働大臣より認定を受け、次世代育成支援マークを取得しました。広島県内では七番目の認定企業となりました。



▲認定マーク「くるみん」

改善活動（生産革新）

改善活動で働きがいのある職場作りをおこなっています。自分たちの職場でムリ・ムラ・ムダをなくし、作業しやすい方法、やりがいのある仕事になるよう、一人ひとりの知恵を出し合い、“わくわく・イキイキ”と改善活動をおこなっています。

昨年はこのボトムアップ型の改善が、アヲハタ賞グランプリとして社内で表彰されました。

改善活動が会社の風土として根付くよう外部講師をお招きし、事業所ごとに勉強会等を開催し、改善の考え方や技法などを学んでいます。



▲皆で知恵を出し合って改善を進めています。



▲社内表彰。
改善の努力を讃えます。

継続的にコンプライアンスに対する意識を高めています

当社グループでは、コンプライアンスに対する意識を高めるため、継続的な取り組みをおこなっています。

「コンプライアンス・カード*」およびセクシュアル・ハラスメントを防止するためのガイドブック「セクシュアル・ハラスメント防止ガイドライン」を作成し、全役職員に配布しました。

○平成 21 年に実施したコンプライアンス研修

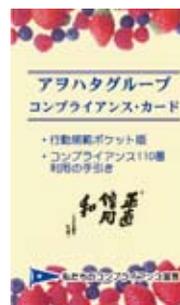
テーマ：セクハラ防止研修

時期：平成 21 年 5 月～6 月

対象：各工場の男性従業員（約 170 名）

また、毎年、新入社員研修において「アヲハタ行動規範」の解説・徹底をおこなっています。

*コンプライアンス・カード…「アヲハタ行動規範」の要約版および内部通報制度「コンプライアンス 110 番」の利用の手引きを記載したカード。



▲「コンプライアンス・カード」（左）と「セクシュアル・ハラスメント防止ガイドライン」

アヲハタドライバー会による交通事故防止の啓発活動を展開しています

「アヲハタドライバー会」は、仲間の中から交通事故の加害者・被害者を出さないことを願い、1978年に発足しました。公私にわたり交通法規を順守し、安全運転をおこなうべく交通事故防止の啓発活動を展開しています。また、継続して社内報に会員の運転中の体験を掲載、安全運転の意識付けをおこなっています。



▲電子社内報の掲載記事「私のヒヤリハット体験」



▲竹原警察署交通課長様を講師にお迎えして「交通安全講話」を実施

安全衛生活動に取り組んでいます

社是に「安全と衛生を第一とすること」を掲げ、「働く人々の安全と健康は全てに優先する」を標榜する当社では早くから安全衛生についての取り組みを続けてきました。

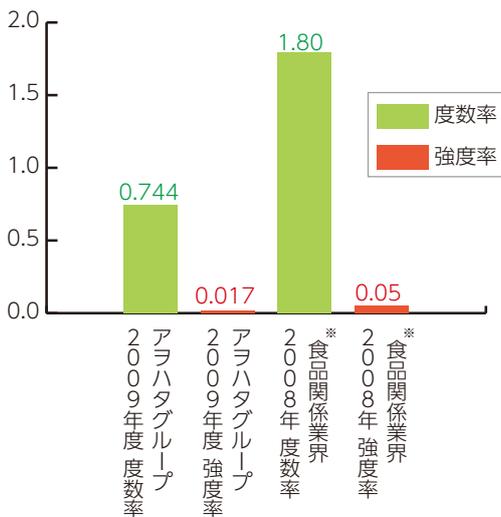
■ 度数率と強度率でみる労働災害の状況

度数率は、100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表わしたものです。

強度率は1,000のべ実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の重篤度を表わしたものです。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{のべ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

$$\text{強度率} = \frac{\text{労働損失日数}}{\text{のべ実労働時間数}} \times 1,000$$



※食品関係業界の度数率と強度率は、厚生労働省発表の資料「産業、事業所規模別労働災害率及び死傷者1人平均労働損失日数」から「食料品、飲料・たばこ・飼料製造業（500～999人規模）」の数値を引用しました。

■ 従業員の健康管理

産業医による健康相談日を設けており、社員が気軽に相談ができるほか、社内報等において健康関連の記事を掲載し、労働衛生週間の際には講演会を開催するなど啓発活動を展開しています。

また、メンタルヘルスに関しては精神科の医師と嘱託医契約を結び、専門的な見地からアドバイスを得ています。



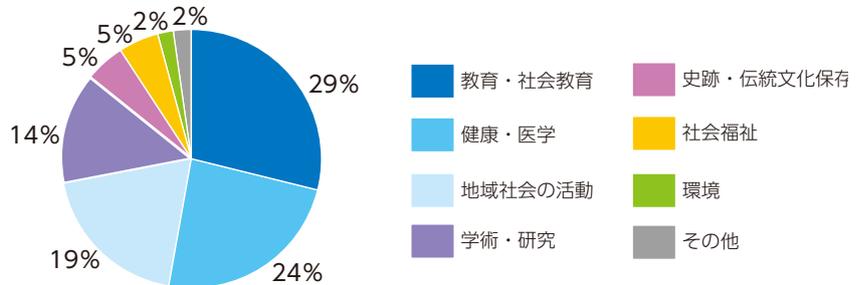
▲社内報で安全・衛生の話題を提供

地域・社会とともに

地域に根ざした企業であることを自覚し、共に持続的に発展するために地域・社会から好ましい存在として信頼され、より良い企業市民となることを目指します。

継続的に地域・社会貢献活動に取り組んでいます

当社グループの2009年度社会貢献活動関連支出額は、6,902千円、連結経常利益比率は、0.8%でした。



アヲハタ奨学金基金への寄付

創業の地であり本社所在地でもある広島県竹原市で、当社グループからの寄付金をもとに社会に貢献できる人材を育成することを目的として、2001年9月に「アヲハタ奨学金基金」が設立されました。

この制度は、大学に進学を予定している人のうち、「本人または保護者が竹原市に居住している」「学力優秀である」「経済的理由により、修学が困難である」という方を対象とした給付型の奨学金制度です。

設立後も毎年継続的に本基金へ寄付しています。



▲竹原市のホームページに掲載されています。
<http://www.city.takehara.hiroshima.jp/gakkoukyouiku/gakkou/enjyo.jsp#aohata>

職場体験学習の受け入れ

地域の中学校・高等学校をはじめ、大学の学生さんが働くことを体験する職場体験学習を積極的に受け入れ、当社グループ内にある多岐にわたる職種、例えば生産、環境整備、旅行事業などを経験していただいています。

また、「食」に関する分野において、大学からの講演依頼をお受けし、社員を派遣して講演をおこなっています。

社員が積極的にボランティア活動に取り組めるよう支援しています

当社グループでは、間接的な社会貢献施策の一環として、社員が積極的にボランティア活動に取り組めるよう支援しています。

支援策の一つは、「ボランティア休暇制度」で、社員が「環境保全活動」「地域社会活動」「社会福祉活動」などのボランティア活動に参加する場合、年間7日間のボランティア特別休暇を取得することができるという制度です。

もう一つは、「ボランティア活動に関する情報提供」で、近隣のボランティア情報を収集し、掲示板や社内報などを活用して広く社員に提供しています。また2009年5月からボランティア活動などに関する

「ポイント制度」をスタートさせました。
 (詳細は7ページをご参照ください)



▲地元のクロスカントリー大会の運営スタッフとして参加

集計範囲：アラハタグループ生産3工場

対象期間：2008年11月1日～2009年10月31日

(注) 表示単位未満を四捨五入しているため、合計値が一致しない場合があります。

環境保全コスト（事業活動に応じた分類）

当期の環境保全設備投資額は、33,851千円となりました。当期の設備投資の主要なものとしては、ジャム工場のカス焚き貫流ボイラーの導入、コンプレッサーの更新、東北アラハタ(株)のキュービクル更新、芸南食品(株)のドレン回収および全工場の排水処理設備増強などです。当期の費用額は116,626千円で前年度と比較すると42,554千円(26.7%)減少しています (単位：千円)

分類	主な取り組みの内容	2009年度		2008年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト		33,851	83,228	11,897	121,567
内 訳	(1) - 1 公害防止コスト	13,066	45,262	4,449	67,121
	(1) - 2 地球環境保全コスト	18,805	9,100	921	12,708
	(1) - 3 資源循環コスト	1,980	28,866	6,527	41,738
(2) 上・下流コスト	容器包装材の再商品化義務費用	0	17	0	10
(3) 管理活動コスト	ISO14001費用、構内美化緑化費用	0	31,535	0	35,535
(4) 研究開発コスト	容器の軽量化研究人件費	0	1,399	0	1,398
(5) 社会活動コスト	環境保全団体等への寄付	0	447	0	670
(6) 環境損傷対応コスト	なし	0	0	0	0
合計		33,851	116,626	11,897	159,180

環境保全対策に伴う経済効果（実質的効果）

経済効果については、排出物のリサイクルによる売却益は市況の変化により前年比63.4%減の4,652千円となり、前年対比8%減少しました。 (単位：千円)

効果の内容		金額 (2009年度)	金額 (2008年度)
収 益	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクル又は使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	4,652	12,720
費用節減	排水処理費用の削減	7,375	7,375
	省エネルギーによるエネルギー費の節減	7,073	5,012
	省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	16,929	14,094
	容器包装等の低環境負荷化のための追加的取り組み	0	0
合 計		36,029	39,201

環境保全効果

環境保全効果については、総エネルギー投入量は719kℓ(13.9%)削減、水資源の投入量は17,605m³(3.7%)削減、総排水量は24,293m³(5.6%)削減するなど環境負荷を低減することができました。

また、燃料転換や省エネルギーに努めエネルギー投入量が減少したため、二酸化炭素は817t-CO₂(6.5%)削減できました。今後とも、エネルギーの消費量を含めた温暖化防止策に重点をおいた環境投資を継続しおこなってまいります。 (単位：kℓ、m³、t)

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標 (単位)	2009年度	2008年度 (基準期間)	基準期間との差 (環境保全効果)
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (原油換算kℓ)	4,452	5,171	-719
	水資源投入量 (m ³)	456,709	474,314	-17,605
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t -CO ₂)	11,789	12,607	-817
	廃棄物等総排出量 (t)	1,934	2,131	-197
	廃棄物最終処分量 (t)	15	9	7
	総排水量 (m ³)	411,685	435,977	-24,293
	水質 (COD) (t)	10	10	0
	NOx 排出量 (t)	6	10	-5
	SOx 排出量 (t)	35	24	11

	Input	Output	
アヲハタ(株)ジャム工場	原料 全原料 14,711 t 容器・包装資材 ガラスびん 7,939 t プラスチック容器 135 t 金属缶(蓋) 477 t ダンボール 1,224 t その他 0 t エネルギー 電力 43 千GJ 燃料 38 千GJ 用水 94 千m ³	製品 25,637 t 大気排出 CO ₂ 4,725 t SO _x 0.4 t NO _x 0.6 t 排水 排水 92 千m ³	廃棄物 再資源化 1,063 t 焼却・埋立 10 t 有価率 44 % 
東北アヲハタ(株)	原料 全原料 6,094 t 容器・包装資材 ガラスびん 0 t プラスチック容器 299 t 金属缶(蓋) 500 t ダンボール 648 t その他 3 t エネルギー 電力 26 千GJ 燃料 39 千GJ 用水 241 千m ³	製品 10,929 t 大気排出 CO ₂ 4,145 t SO _x 23 t NO _x 3 t 排水 排水 227 千m ³	廃棄物 再資源化 441 t 焼却・埋立 0 t 有価率 55 % 
芸南食品(株)	原料 全原料 5,568 t 容器・包装資材 ガラスびん 978 t プラスチック容器 193 t 金属缶(蓋) 35 t ダンボール 646 t その他 0 t エネルギー 電力 26 千GJ 燃料 22 千GJ 用水 121 千m ³	製品 7,357 t 大気排出 CO ₂ 2,920 t SO _x 12 t NO _x 2 t 排水 排水 92 千m ³	廃棄物 再資源化 415 t 焼却・埋立 5 t 有価率 39 % 

生産拠点

- ①アヲハタ株式会社ジャム工場
- ②東北アヲハタ株式会社 (グループ会社)
- ③芸南食品株式会社 (グループ会社)

グループ会社

- 株式会社アヲハタエフエムサプライ
- テクノエイド株式会社
- 株式会社エイエフシー
- 株式会社ビーエフ情報サービス
- 株式会社アヲハタ興産
- レインボー食品株式会社



※ 2009年10月1日付で株式会社アヲハタエフエムサプライおよび株式会社ビーエフ情報サービスをアヲハタ株式会社に吸収合併しました。

●電力消費量

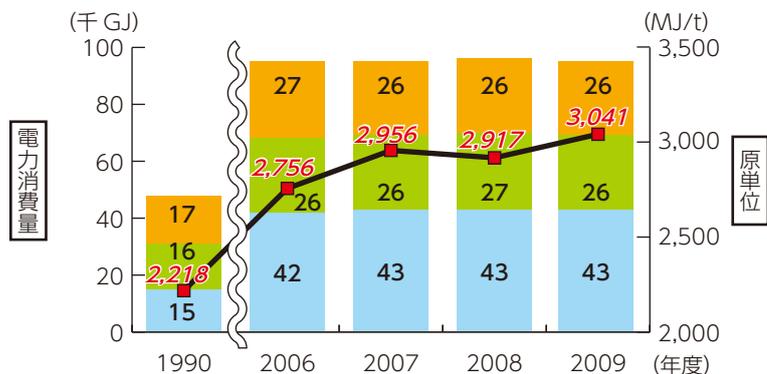
2009年度の生産における電力消費量は下記の通りでした。

電力消費量 94 千GJ / 年

生産原単位 3,041 MJ / t

2008年度に対し電力消費量で1.7%削減しましたが、原単位で4.3%増加しました。

これは少量多品種の品目が増え、全体の生産数量が減ったことによるものです。



●燃料消費量

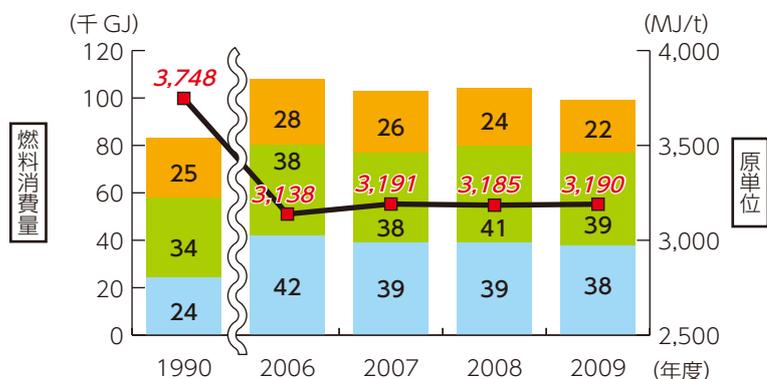
2009年度の生産における燃料消費量は下記の通りでした。

燃料消費量 98 千GJ / 年

生産原単位 3,190 MJ / t

2008年度に対し燃料消費量は5.6%削減しましたが、原単位では0.2%増加しました。

これは少量多品種の品目が増え、全体の生産数量が減ったことによるものです。



●用水使用量

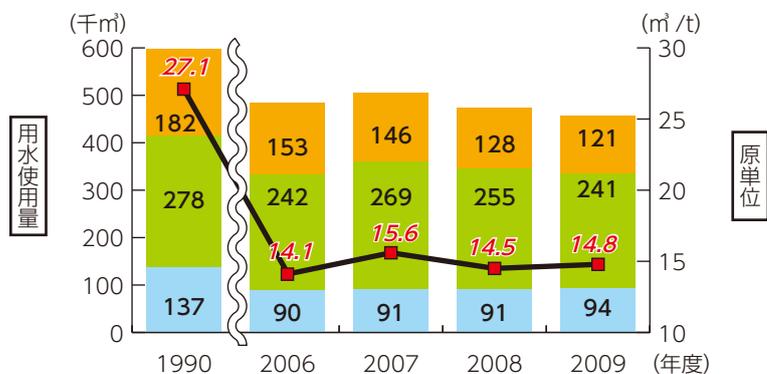
2009年度の生産における用水使用量は下記の通りでした。

用水使用量 457 千m³ / 年

生産原単位 14.8 m³ / t

2008年度に対し用水消費量は3.7%削減しましたが、原単位では2.1%増加しました。

これは少量多品種の品目が増え、全体の生産数量が減ったことによるものです。



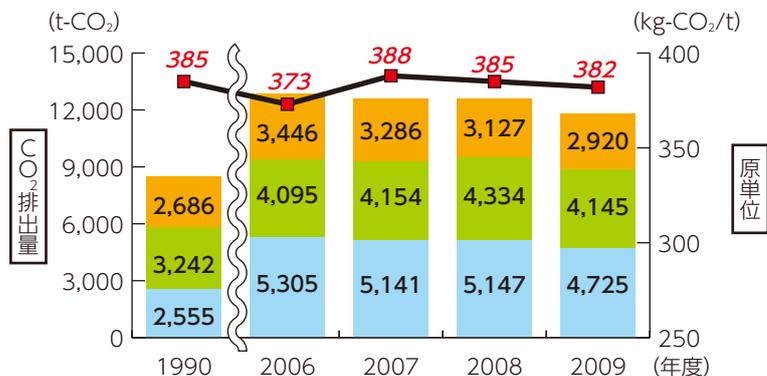
●CO₂排出量

2009年度の生産におけるCO₂排出量は下記の通りでした。

CO₂排出量 11,789 t-CO₂ / 年

生産原単位 382 kg-CO₂ / t

CO₂排出量が少ない燃料へ転換したことや省エネルギー活動に努めた結果、2008年度に対しCO₂排出量は6.5%削減、原単位では0.8%減少しました。



■ ジャム工場 ■ 東北アラハタ ■ 芸南食品 ■ 原単位

アヲハタ株式会社の概要 (2010年4月30日現在)

- ・商号 アヲハタ株式会社
- ・創業 1932年12月
- ・設立 1948年12月
- ・資本金 6億4,440万円
- ・事業所 本社／広島県竹原市忠海中町一丁目1番25号
営業本部／東京都渋谷区渋谷一丁目17番6号水野ビル2階
ジャム工場／広島県竹原市忠海中町一丁目2番43号

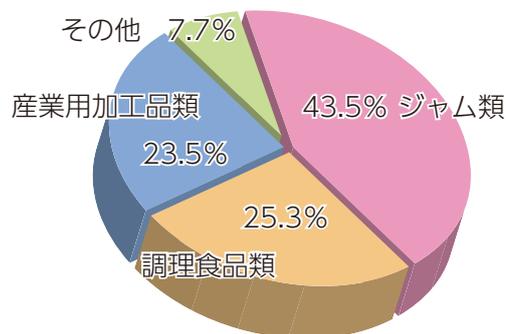


アヲハタグループは、アヲハタ(株)とグループ企業6社で構成され、ジャム類(ジャム、マーメイドなど)、調理食品類(パスタソース、料理用ソースなど)、産業用加工品類(フルーツプレパレーション:主としてヨーグルト用フルーツソース)などの食料品の製造および販売を主な事業内容とし、その他に関連事業として原材料の購入販売およびその他サービス業などの事業活動をおこなっています。

売上高・経常利益推移 (連結)



売上高構成比 (連結・2009年度)



主要製品

ジャム類



アヲハタ 55 ジャム



アヲハタ トラディショナルジャム



アヲハタ Fruityfull



アヲハタ 低カロリージャム



アヲハタ ホワイトジャー

産業用加工品類



産業用果実加工品
(写真はイメージです)

調理食品類



キューピー ミートソース



キューピー Italiane



キューピー3分クッキング
パスタのためのオイルソース



キューピー
あえるパスタソース



キューピー やさしい献立

その他



レインボー食品(株)の製品

発行・連絡先

アヲハタ株式会社 経営推進本部 総務部

〒729-2392 広島県竹原市忠海中町一丁目1番25号
TEL : 0846-26-0111 FAX : 0846-26-0537
URL <http://www.aohata.co.jp/>

この冊子は再生紙を使用し、大豆インキを使用して印刷しました。
この冊子には活字の一部にユニバーサルデザイン書体を使用しています。